

1972年6月15日発行
共産主義者同盟(RG)
第4号 100円 発行人 野村忠

赤報

スターリン主義打倒、反スタマルクス主義止揚、革命的マルクス・レーニン主義復権の旗を更に高く揚げ、国際非合法党を建設せよ！

連合赤軍の党的破産と国際非合法党建設の道(上)

序 文

われわれは、すでに昨年11月に赤報1号の紙上で連合赤軍の路線に対する批判を明らかにし、さらに、かつての党内連合赤軍派・神奈川左派に対する批判の中で、赤軍派と日本革命左派の路線に対する批判を明らかにし、さらには、本年2月、あの銃撃戦の以前に、かっての党内連合赤軍派・神奈川左派に対する批判の中で、赤軍派と日本革命左派の路線に対する批判を明らかにしておいた。(「われわれは、パレスチナ解放社会主義世界革命の目的のために、アラブ労働者、農民の側からは革命戦争である。中東戦争は、アラブ労働者、イスラエル・ヨルダン支配L.P.国際義勇軍によるテルアビブ空港奇襲作戦を断固支持し、その計画性、英雄主義を高く賞賛する。」)この闘いは、モスクワにおける米帝国主義とソ連社会帝国主義との中東石油資源と領土をめぐつてのパレスチナ問題に関する陰謀的取り引きを弾劾し、パレスチナケリラは壊滅的状態にあるという帝國主義とイスラエル・ヨルダン支配L.P.国際義勇軍によるテルアビブ空港奇襲作戦を断固支持し、その計画性、英雄主義を高く賞賛する。

米帝国主義とイスラエル・ヨルダン支配L.P.国際義勇軍によるテルアビブ空港奇襲作戦の階級の側から侵略・抑圧・反革命戦争である。

米、イスラエル、アラブの独裁者が、革命戦争にまで发展させ、労働を隸属させるために示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの経済的独立を永続化させ、労働者、農民に対する独裁政権が、革命戦争にまで发展させ、労働を隸属させるために示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

われわれは、「赤報」2号、もともと印刷体制の事情で、発行されたのは、3月25日であったが、赤報1号の紙上で連合赤軍の路線に対する批判を明らかにしておいた。(「われわれは、パレスチナ解放社会主義世界革命の目的のために、アラブ労働者、農民の側からは革命戦争である。中東戦争は、アラブ労働者、イスラエル・ヨルダン支配L.P.国際義勇軍によるテルアビブ空港奇襲作戦を断固支持し、その計画性、英雄主義を高く賞賛する。」)この闘いは、モスクワにおける米帝国主義とソ連社会帝国主義との中東石油資源と領土をめぐつてのパレスチナ問題に関する陰謀的取り引きを弾劾し、パレスチナケリラは壊滅的状態にあるという帝國主義とイスラエル・ヨルダン支配L.P.国際義勇軍によるテルアビブ空港奇襲作戦を断固支持し、その計画性、英雄主義を高く賞賛する。

米、イスラエル、アラブの独裁者が、革命戦争にまで发展させ、労働を隸属させるために示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

米軍、イスラエル軍、ヨルダン軍を同盟させ、彼らの国家権力、級闘争の奔流の一つであり、すなはち、アラブ労働者、農民が自らの経済的解放を実現するため、その戦争は、その戦争から遙に、國際義勇軍は、今日の國際義勇軍を生み出すに到つたことを示した。

に關する聲明

共産主義者同盟(RG) 政治局

PFLP 国際義勇軍のテルアビブ空港奇襲作戦

に關する声明

第一回 第一章 銃撃戦と赤軍派の総括

(a) 銃撃戦と肅清を切り離した

党的解体

連合赤軍の統括と赤軍派の批判

連合赤軍の統括と赤軍派の批判</h

△二面より続く△

政治運動は、手段としてこの目的に従属すべきこと」

「土地の貴族と資本の貴族は、つねにその政治的特権を、彼らの経済的独占を擁護し永続させ労働者隸屬させるために利用しているので、政治権力の獲得はプロレタリアートの偉大な義務となっている」

要するに、労働者階級の経済的解放が目的として、政治権力の取扱いによって、資本主義批判と赤軍派の直感とを折衷したのである。

この両者の目的として、同等に取り扱うことによって、資本主義批判と赤軍派の直感とを折衷したのである。ところが、八木君は、この両者の目的として、同等に取り扱うことによって、資本主義批判と赤軍派の直感とを折衷したのである。

(c) マルクス主義の原則復権の今日的意義

思想における折衷主義を克服することなしには、中央集権的組織の建設は空語である。そして又、階級闘争に対するマルクス主義の原則に首尾一貫して立脚することによってのみ、組織に対する中央集権主義の思想を具体化することが出来る。

労働者階級の経済的解放が目的であって、政治権力の奪取はプロレタリアートの義務であることによってのみ、組織に対する中央集権主義の思想を具体化することが出来る。

馬鹿の頭で立つて立派な連邦主義を結成し、この到達した組織

G) を結成し、この到達した組織

の地平から、綱領問題を再度とらえかえし、階級闘争に対するマル

クス主義の原則を復権し、革命戦

争の戦術に対する、またプロレタ

リアーの新しく確立された非合

法党への組織化、そして革命戦争への貢献に対する確固とした基準

を獲得した。

一方、赤軍派は、例の直感を唯一のやり方によるとした結果、世界

に陥り、日共革命左派との連合によ

る。マルクス主義は、民族主義を転

じて、軍事組織を建設した党派

は全て、たとえば、来るべき共産主

義社会をめぐって、党と共産主

義の関係とか、戦略と実験

標との関係とか、軍人の共産主義化といった問題が論争して煮つまつたのであって、この論争を階級

闘争に対するマルクス主義の原則の復権によって解決することが迫られたのであった。

かつて高原君が強調し、われわれと赤軍派との共通した認識である。この原則の復権は、単なる理論問題にわたってなされている。(『赤軍の開拓』2号参照)我々が主張していく

革命の軍隊の建設を、われわれの綱領問題と組織問題の中心点と考へ、世界單一プロ独を資本主義批判から裏づけ、更に世界プロ独を

スターープレジデントの連邦主義に対する國際的党派闘争の基準とし、ここから旧来の党と軍に対する考え方を転換し、政治局軍事委員会

RGII政治軍隊としてその組織的性格を決定し、同盟内八派(烽火派)と同盟内連合赤軍派(神奈川左派)の脱走を許しつつも連合赤

軍の権力問題における連邦主義、党組織における分権主義を批判し、組織建設を具体化し共産同(RG)

を結成し、この到達した組織

の地平から、綱領問題を再度とらえかえし、階級闘争に対するマル

クス主義の原則を復権し、革命戦

争の戦術に対する、またプロレタ

リアーの新しく確立された非合

法党への組織化、そして革命戦

争への貢献に対する確固とした基準

を獲得した。

一方、赤軍派は、例の直感を唯一のやり方によるとした結果、世界

に陥り、日共革命左派との連合によ

る。マルクス主義は、民族主義を転

じて、軍事組織を建設した党派

は全て、たとえば、来るべき共産主

義社会をめぐって、党と共産主

義の関係とか、戦略と実験

標との関係とか、軍人の共産主義化といった問題が論争して煮つまつたのであって、この論争を階級

闘争に対するマルクス主義の原則の復権によって解決することが迫られたのであった。

かつて高原君が強調し、われわれと赤軍派との共通した認識である。この原則の復権は、単なる理論問題にわたってなされている。(『赤軍の開拓』2号参照)我々が主張していく

革命の軍隊の建設を、われわれの綱領問題と組織問題の中心点と考へ、世界單一プロ独を

スターープレジデントの連邦主義に対するマルクス主義の原則の復権によって解決することが迫られたのであった。

かって高原君が強調し、われわれと赤軍派との共通した認識である。この原則の復権は、単なる理論問題にわたってなされている。(『赤軍の開拓』2号参照)我々が主張していく

△三面より続く

花園君は、「革命の問題は国家権力の問題」だといつてゐるが、しかし彼は、ブルジョア国家を暴力的に粉砕しなければならないと確認するのみであつて、樹立すべきプロレタリア権力については、何も語らうとしない。このことは、彼の世界単一のプロ独の無視と同じ内容、同じ思想である。社会帝國主義者は、樹立すべきプロレタリア権力は一国ごとにさざれるであつてから、平和共存を主張し、それ故、平和移行が可能であると主張する。一方、51年編領や花園君の立場は、革命権力の内容には、られない今まで、ただ暴力を對置するのみである。社会帝國主義者は、たゞ法において日露見主義者のものではない。革命権力の内容自体が問題なのである。

「労働の解放は、局地的な問題によるのみである。社会帝國主義者によらなければならぬ社会問題であること」(第一インター)、

括り、その解決はもつとも先進的な諸国実業的および理論的協力による。

労働の経済的解放のための手段である以上、その内容はこの原則に従わなければならぬ。この原則によつて樹立されなければならない。

プロレタリア独裁しかりえない。

そして、この世界単一のプロレタリア独裁は、帝國主義と社会帝國主義に対する世界革命戦争の勝利によって樹立されなければならない。

レタリア独裁の内容を欠落させるることによって、花園君はコマンチー社会帝國主義に対する戦術左翼的立場は、今回の統撃戦、一爾清の思想的基礎をもなしてゐる。

(b) プロレタリア

の民主主義闘争とプロレタリア民主主義

の混同について

51年編領にもとづく武装闘争の統撃戦と混同しているところの誤った見解である。

資本主義社会におけるプロレタ

リアの統撃戦

によって、この現実を清算しよう

約されている。

このようないく社会帝國主義

が、より党的である。

これが、より党的である。

「工業では、たとえば、一〇〇円の石油から一〇〇〇円のシャツを作り、動かなかつたブルジョアは八〇〇円がすめどり、一〇〇円だけ労働者に与える、といった調子で、働きもしなかつた、従つて何の価値も生み出さなかつたものが、価値を生み出す労働を加えたものから価値をかすめどるといつたことが起る。」（ビザ2号、8）うえのぐんのこの資本主義批判は空虚の産物である。貢労労働現実は、実際には次の様になつてゐる。

誤 謂 関 し は ら に の 一 開 す 行 ね わ は い こ ひ た し に は ま た は 生 つ と も あ 由 て 、 彼 は 一 部 分 の 労 動 者 の 資 本 家 が 動 力 を 買 う た 所 有 者 た ち に 売 る そ れ を 売 う 「 」 と い ふ 事 は 、 動 力 を 買 う た 事 で は な く 、 そ れ が そ の 動 力 と い う 事 で あ つ た 事 だ と い う 事 だ 。

誤謬といつては、アーティスティックな表現を用いて、現象の本質を説明するものである。たとえば、社会的生産の過程における「経済的関係」や、「社会的構造」など、一定の時間的、空間的、暫時の性質を持つことを、はつきりと理解しない。この対して、絶対的なものである。現社会論では、絶対的なものである。「財産は盗難である。」

はすませないでいる。彼は、時代の生産形態を理解し、性格を理解し、制度を歴史的につきりと証拠する。一方で、マルクスによれば、「社会財産」の社会会関係の総体である「資本」と「労働」の関係を、アードン氏と同じく「資本と労働の接的生産過程と個別労働者との関係」を理解する。資本——労働の関係を、その自身誤って解説する。そこで解説をして、その間隔を詮釋する。この泰露として、宇野弘蔵や、吉田信一郎、西田哲也ら再生産過程における人間疎通して、所有権と賃労働の法則として、そのを——「本と賃労働の関連において、資本と労働の交換……」とし、労働関係を把

よろづやをひらめく。アーヴィングの「アーヴィングの歴史」によれば、18世紀後半のイギリスでは、農業生産の効率化によって、地主は雇農の生産を監視する必要がなくなり、雇農は自分の生産を主張する権利を得た。これが「アーヴィングの法則」として知られる。この法則により、雇農は自分の生産を主張する権利を得た。これが「アーヴィングの法則」として知られる。この法則により、雇農は自分の生産を主張する権利を得た。

タリアートの
なわち「ブル
ターン」とい
う關係を、物的生
産条件の所
するブルジョア
の無所有の)」
的隸屬として
にこそ、我々
的に裏づけた
があつたので
して、この
權主義の思想
社、一方では
敷く政治警察
我々の手に
し、我々に對
を出し、實質
して、地方で
治運動は、手
根本にあるこ
れゆえ、労
に従属すべき
第一インター
である。

のは、単にその所有者の人間が、自らの経営の核となるべき問題に中央の問題に、旧社会の従属的徒隸が源泉の水を供給する。すなはち、この法体制を通じて、各の復興の様なことを新説を採用する。したがつて、この目的の達成には、労働者階級の一部が、資本家、労働者、資本家との間の視点の変化させること、終の終焉の把握とし、この一つの価値の実現化さる。

(4) 三種の軍隊

章に見てきただけで、樹立（むかし）た階級闘争の基礎（ふじゆ）に、次の幾つかの点（こと）が、明らかに現れてゐる。「あだらない」といふのこのよは、あだらぬ出來事（こなれ）ではない。たゞ、究極的には、それが、その點（こと）で、あだらぬ出來事（こなれ）である。

のく、
一の軍隊

解を意味する。て、次に我々一般規約前文に主義の原則を適用していこう。

論づけ、ボーナ・ザップ同志をしてもらい、造的に適用し

文章を、そつているのである。論を何の原則で論じるかが問題だ。

「イメージ」では60年代ブームのくもんも「スのブランド」を清算し、「を清算し、（＝幻想）的ではない。」

氏のように完結落してしまって、うにしても、うをしこなう。義批判をアートに対して、あらかじめ立脚できることのよな無結果、プロレタリアートに対する「三種のボーカル・グループは、離さず……」

の「生産共同」は、第一回で書かれた、「批判の精神」と、「三種の軍隊」についての国家論とされる。日本は現実の軍隊を形成する」が、作戦場と各地に従つて特殊部隊をもつて、自分を生産する以上、我々は、ボー・ゲン・ジョンの軍隊」を結ぶ。根拠地で……して……突然達成し……力しへ……地方を形成する」

緊密に整
力の防衛
が支配者
する。」
又は、戦
空、海軍
そして
「の日本
?」)とし
様に述べ
「正規軍
地下機動軍
軍のこと
方軍の業
作者など
ていている部
)にある
)にある
ともハ派
とまだな
兵軍自衛軍
運動(も
規軍、
設する長
実現する
一分隊を
一分隊を
大分引
がうえの
概要であ
一に、彼
ドン主義
の最終目
を混同し
軍隊」を
級闘争の
組織「
本思想が
る「軍か
した「紅
をもつ「
「發生的」
できない
こと、第
「ボ」・
想的根拠
借用する
争・革命
治的態度
産主義者
あること

「正規軍は、
その拡大、人、
力など、地方人、
であるとい
うべきである。
力よりなる。
ていている。
主力部隊の革
戦略的重要な例
本的適用の例
的な歩兵部門、
つて、うえの
努力よりなる。
ことか？」
は地下静止状
し、ゲリラが
と、半合注
分（革命戦線
民兵軍）の革
つぶる社のこ
を……関東、
らなくてもモ
人民の中にお
ることか？」
戦略的に配備
地方軍——
地方軍——
期的展望をた
ことである。
（12—13P）

問題に關して
章において、
の働く人の經
形の隸屬、あ
精神的退化、
の箇所の復権
あること。
た、労働者階
目的であつて
やブルジョア
を生みだした
は手段として
さものである
か、うえのく
ヤブルジョア
を生みだした
は手段として
さものである
ため」の「戦
「三種の軍隊
「新しい生産
「新しい生産
「手続を混同
「もうけ」にな
ないのである
が生まれる。
たところでは
的な、牧歌的
ようにつめた
のなかで溺死さ
ア階級は、生
生産關係を、
關係を、絶え
しない。・

言ふならば、うえのくんの誤りを指しておこう。生活源泉の政治的従属一般規約をあげておこう。

「この目的にこと。」

「…んにあつて…を粉碎闘」を担う

「…を形成関係」の中で、組織の中労働者のも

「…して最後労働関係と」の内実

「…生きている…を生活新しい生…の芽をしてなし…人民なる、なら

「…いにしてい…」（17）

「…て、階級闘争、同時に裁權力の樹くてはなら

「…かれら王の感激、士の感動、よらかな感…に利己的…がされた。」

「…生産用具を…したがつ…」

「…ブルジ…」

労働者階級の自然な戦争を遂行するための闘いに押され、その組織は「労働者階級の自然な戦争」である。この「労働者階級の自然な戦争」が、世界唯一の革命的戦争である。この「労働者階級の自然な戦争」に対する責任感をもつて、この「労働者階級の自然な戦争」を樹立し、この「労働者階級の自然な戦争」を実現するための闘いに、自らの立場から始めなければならない。

要求のた
その結
ること。
し、革命
をも、革
るものとし
「軍か
の民主
級の民
主主義者
の専門化
のであ
中央集權
こすいて
マル
ビ」政
治

Digitized by srujanika@gmail.com

>七面より続く

○ひげをはやす

○頭髪を伸ばす

○坊主刈りにする

○マスクを使用する

○その他

7件

7件</div